

読み書き学習支援の 実際とポイント

特別支援教育における指導の展開

文部科学省「平成26年度 支援機器等教材を活用した指導方法充実事業」による
読み書き学習の支援マニュアル



2015年3月 発行

発行者／東京学芸大学 附属特別支援学校・東京学芸大学 教育学部 特別支援科学講座・東京学芸大学 教育実践研究支援センター
デザイン・イラスト・DTP／磯崎デザイン事務所

東京学芸大学 附属特別支援学校

東京学芸大学 教育学部 特別支援科学講座

東京学芸大学 教育実践研究支援センター

はじめに

読み書きスキルの習得は、社会参加し、適応していく上で大切なスキルとされています。

読み書きの習得には、さまざまな認知能力が関与します。したがって、支援を組み立てる際には、学習の実態把握を行うことが大切です。実態把握は、「読み書きスキルの達成」と「読み書きにかかわる認知特徴」について行います。

本書では、「読み書きスキルの達成」を、学習の特徴から10の項目にまとめました。「読み書きにかかわる認知特徴」に関しては、スキル困難の背景要因としてまとめました（右頁・表1）。このように大きくまとめることで、学習課題の方向づけが明瞭になりました。

読み書きの習得には、時間がかかります。この長い時間の中で、ポジティブな気持ちを持って、読み書きの学習に向かえるよう配慮することが大切です。子供にとって楽しい取り組みにするためには、学習のポイントを明確にすることが大切です。本書の提供している項目は、その学習のポイントです。学習課題を組み立てる上での一助になれば幸いです。

この冊子は、平成26年度 支援機器等教材を活用した指導方法充実事業の一部として作成されました。

2015年3月31日

支援機器等教材を活用した指導方法充実検討会議

東京学芸大学 附属特別支援学校

大伴 潔・小金井俊夫・井上 剛・宮井清香・宮坂美帆子
特別支援科学講座

小池敏英・国分 充・濱田豊彦

教育実践研究支援センター

小林 巖

(作成協力：附属特別支援学校 吉田友紀)

表1 読み書きスキルの達成レベルと困難の背景要因

読み書きスキルの達成	困難の背景要因	
1 絵カードマッチングができない	記号関係の理解	
2 かな文字が読めない	文字の形の区別	音のイメージの操作
3 かな文字が書けない	文字の区別と記憶	始点と終点を意識した書字運動
4 特殊音節単語が、読めない・書けない	音のイメージの操作	
5 文章をスラスラと読めない	文字と音の変換	単語をまとまりとして読むこと
6 生活でよく使う漢字単語が読めない	語彙の発達	聴覚記憶
7 生活でよく使う漢字単語が書けない	漢字の読み	漢字部品の視覚記憶
8 抽象的な意味の漢字単語が読めない	意味の理解と記憶	聴覚記憶
9 抽象的な意味の漢字単語が書けない	漢字の読み	漢字部品の視覚記憶
10 複雑な形の漢字の読み書きが苦手	視空間認知	

タブレット端末による学習支援ソフトは、基礎アセスメントならびに、項目3,6,7,8,9,10に関する学習課題を提供します。

Contents

はじめに	2
1 絵カードマッチングができない	4
2 かな文字が読めない	6
3 かな文字が書けない	8
4 特殊音節単語が、読めない・書けない	10
5 文章をスラスラと読めない	12
6 生活でよく使う漢字単語が読めない	14
7 生活でよく使う漢字単語が書けない	16
8 抽象的な意味の漢字単語が読めない	18
9 抽象的な意味の漢字単語が書けない	20
10 複雑な形の漢字の読み書きが苦手	22

絵カードマッチングができない



図1-1

困難の背景

「指導者が見本の絵カードを示し、前に置かれた選択肢の中から、同じ絵カードを、子供が取り出す」という課題は、読み書き学習の基本になります。絵カードマッチングがうまくいかない背景には、「記号関係の理解が発達途上」であることを指摘できます（図1-1）。

指導の考え方

記号関係の理解が可能になると、「大人が提示したものが、何かを指し示している」ということを理解できるようになります。抽象的な記号の例としては、「文字単語と事物」の関係です。文字単語は、事物を表しています。より具体的な記号の例としては、「靴箱と靴」の関係です。私たちは、「靴箱は、靴を入れるところである」という関係を理解しています。生活場面での具体的な事物の操作の様子で、記号理解のレベルを知ることができます。マッチング操作とは、対応づける操作です。言語発達の遅れを示す子供では、記号関係の理解が十分でないで、事物によるマッチングや絵カードマッチングを通して、記号関係の理解を促していきます。

指導例1 「事物によるマッチング課題による指導」

- ①子供の前に、お皿とカップを、選択肢として置きます。指導者が見本のお皿を提示します。指導者が提示したものと同じものを選ぶように教示します。その際に、指導者は、お皿とお皿、お皿とカップを重ねて、同じもの同士は重ねることができることを示します。
- ②①の課題を行うことができない場合には、子供に見本を渡し、見本を選択肢の上に置くように教示します。これは、選択課題よりもやさしい課題となります。



図1-2

指導のポイント 重なる事物は、子供にとって、同一であることがわかりやすい課題です。マッチング課題が未達成である子供では、言葉の発達が途上ですので、視覚的にわかりやすい条件で、マッチングを指導します。

指導例2 「透明絵カードによるマッチング課題による指導」

- ①子供の前に、透明絵カードを複数、選択肢として置きます。指導者が絵カードを、見本として示します。指導者が示したものと同じものを選ぶように教示します。その際に、指導者は、透明絵カードを絵カードの上に重ねて示します。違う絵は、重ならないことを例示します。透明絵カードは、透明カードの上に、切り抜いた絵を貼ることで作成します。
- ②①の課題を行うことができた場合には、絵カードを用いて指導を行います。
- ③絵カードマッチングができるようになった場合には、かな文字を用いてかな文字単語カードのマッチングを指導します。

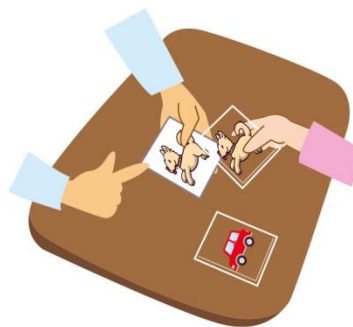


図1-3



図1-4

アクリルカードマッチングでは、誤ったカードを選択すると、重ねたときに見本と合わないことがわかりやすくなります。

指導のポイント 子供から離して、かな文字単語カードと対応事物を置いておきます。指導者がかな文字単語カードを示し、子供は、それに対応する事物を取り出して渡すことを練習します。この行動は、障害の重い子供でも達成できる行動です。これによって、生活場面の中での、事物の取り出しに対応し、かな文字単語の利用を広げます。

かな文字を読めない



図2-1

困難の背景

かな文字をうまく読めない背景には、「文字の形を区別することの困難」や、「音のイメージを心の中で操作することの困難」があります（図1-1）。

指導の考え方

子供たちは、文字を絵として捉えて読む段階（ロググラフィック段階）から文字を音に変換して読む段階（アルファベット段階）に、発達します。生活の中で経験する事物を表すかな単語になじみ、かな単語を絵として捉えて読む段階を経過して、文字を音に変換して読む段階に達します。各段階で、文字を読むことを経験することが大切です。アルファベット段階へ至るためには、「文字の形の区別を促す指導」や「音のイメージの操作を促す指導」が効果的です。また、「プロンプトを利用する指導」も効果的です。プロンプトとは正しい反応を引き出す手がかりのことをいいます。

指導例1 「プロンプトを利用する指導」

- ①ここでは、プロンプトとして絵を使う方法を述べます。はじめに絵カードと小さな文字カードを提示します（例として、「いぬ」の絵カードと小さな「い」の文字を提示します）。子供に、「いぬ」の「い」と声に出して言うよう教示します。
- ②次に、指導者は小さな「いぬ」の絵カードと大きな「い」の文字を同時に提示します。子供は、それに対応した文字カードを選び、その名前をいいます。
- ③指導者が文字カードのみを提示します。子供は、それに対応した読みを言います。



図2-2

指導のポイント キーワードは、子供にとってわかりやすい絵を用意します。

指導例2 「音のイメージ操作を促す指導」

- ①音のイメージを心の中で操作する課題としては、「しりとり遊び」があります。
- ②また、ひらがな単語を聴覚提示し、「音の数だけおはじきを置く」課題があります。指導者は、音の数だけ、「おはじきを置いてください」と教示します（音韻分解課題）（例えば、「ネズミ」といって、音の数だけおはじきを置くよう教示します）（図2-3）。
- ③その後、特定の音を提示し、その場所を指差すよう教示します（音韻抽出課題）（例えば、「ネ」の音は、どのおはじき？、とたずねます）（図2-4）。



図2-3



図2-4

指導のポイント 音韻抽出課題は音韻分解課題よりも難しいので、時間をかけて指導するようにします。

指導例3 「文字の形の区別を促す指導」

- ①文字の形を区別する課題では、複数の文字の中から、正しい文字の形を選ぶ課題（図2-5）を作成します。見本文字と選択文字（鏡文字や、傾けた文字など）を用意します。
- ②子供に見本文字と同じ形の文字を選ぶように教示します。

あ	お	は	あ	あ
は	お	お	ほ	は
き	き	さ	き	ち
め	め	ぬ	め	め

図2-5 文字の形にもとづく選択課題

指導のポイント 選択文字の個数を調整することで課題の難易度を変えることができます。

かな文字を書けない



図3-1

困難の背景

かな文字の書き困難の背景には、「文字の区別と記憶の困難」や「始点と終点を意識した書字運動の困難」という要因があります。視覚的弁別と視覚的記憶が弱い子供は、文字の区別と記憶が苦手です。始点と終点を意識した書字運動には、行動調整力の発達に関わります。

指導の考え方

文字の区別と記憶が苦手な子供には、区別しやすく、記憶しやすいイラストを媒介として、文字を指導します。かな文字をイメージしやすい単語（キーワード）を利用して指導します。書字の際には、始点と終点を意識した書字運動になるように指導します。かな文字の書字が苦手な子供には、文字で単語を組み立てる課題も効果的です。

指導例1 「キーワードによる文字の形と記憶を促す指導」

- ①「文字の区別と記憶を促す指導」については、キーワードに対応したイラストに、文字の形を当てはめたカード（イラスト文字カード）（図3-2）を用います。
- ②はじめに、指導者が「いぬのい」と音声で提示し、イラスト文字カードを示します。こどもは、「い」といいながら、「い」の文字カードを取り出し、書字するように指示します。
- ③指導を重ねる中で、指導者が「い」と音声で提示し、子供が書字できるように指導します。



図3-2



図3-3

指導のポイント イラスト文字カードによって、イラストの視覚記憶を手がかりにして、文字の形の記憶の定着を図ります。

指導例2 「始点と終点を意識した書字運動による指導」

- ①はじめに、簡単な線分をなぞるように指示します。
- ②ついで、始点と終点をつけた線分を示し、なぞるように指示します。子供の書字運動は、同じ線分を書くという運動ですが、見本の中に、始点と終点という新しい手がかりが加えられます（図3-4）。
- ③次に、始点と終点のみの見本を示し、始点から終点まで書くように指示します。
- ④その後、透明なシートに始点と終点をつけた線分を書き、模写するように指示します。この透明シートは、子供が書字する紙のそばに置き、見本として提示します。このシートを使って、子供の書いた線と同じであるかどうか、確認します（図3-5）。



図3-4

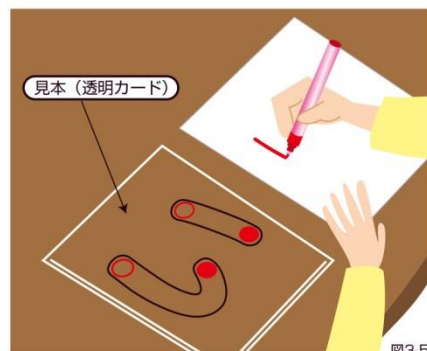


図3-5

指導のポイント 比較的単純な運動を、指導することが効果的です。同じ線分を書くという単純な運動は、書いた長さを確認する中で、始点と終点を意識させるのに役立ちます。

拗音などを含むかな単語が、 読めない・書けない



図4-1

困難の背景

小さな「っ」(促音)や、「ん」(撥音)、「ょ」(拗音)などを含むかな単語は、特殊音節を表わします。この特殊音節単語の読み書きが苦手である背景として、「音のイメージの操作(音韻意識)の不全」があげられます。音韻とは、音のイメージです。例えば、「りんご」という音声は、音のイメージとして心の中で保持できます。私たちは、心の中で、「りんご」という音のイメージから、最初の音を取り出すことができます(音韻操作)。音韻意識が弱い子供では、文字と音の対応の学習が難しくなり、特殊音節単語の読み書きが苦手になります。

指導の考え方

音韻意識を促す方法として、音のイメージを、目に見える形に展開して、意識を促す課題があります。例えば、「りんご」と言いながらおはじきを一つ一つ置いていくような課題です(音韻分解課題)。また、最初に置いたおはじきに対応する音を取り出す課題です(音韻抽出課題)。このような課題では、音のイメージに対する操作を、具体的な事物で行っていることになります。

指導例1 「音記号カードを選ぶ課題による指導」

音のイメージを視覚的に表す方法は、天野(1993)、梅津ら(2008)、小池ら(2013)によって示されています。ここでは、小池ら(2013)の音記号カードを用いた方法を述べます。

- ①音記号カード(図4-3)を作成します。清音、促音、撥音は、1文字に1枚の音記号カードが対応しています。拗音は、2文字に1枚が対応しています。1枚のカードは1モーラに相当します。音記号を組み合わせて、音記号単語カードを作成し、子供の前に提示します(例えば、「でんしゃ」「でんしゃ」「きって」「きて」などの単語を表す音記号をカードに書いて、音記号単語カードを作成します)。
- ②指導者が、単語を言い、子供にそれに対応した音記号単語カードを取り出すよう教示します(例えば、指導者が「でんしゃ」と言い、子供は相当する音記号単語カードを選びます)。



図4-2



図4-3 音記号カードの一例

天野清 1993 学習障害児に対する言語教育プログラム 聴能言語研究 10, 183-189.
海津亜希子・田沼美歌・平木こゆみ・伊藤由美・Sharon Vaughn 2008 通常の学級における多層指導モデル(MIM)の効果—小学校1年生に対する特殊音節表記の読み書きの指導を通じて— 教育心理学研究 56, 534-547.
小池敏英・雲井未歌 2013 遊び活用型読み書き支援プログラム 図書文化

指導のポイント 音記号カードの理解を促すために、1モーラずつ発音しながら、それに対応した音記号カードを提示します。特に、拗音や促音の指導をていねいにします。

指導例2 「音記号カードを組み立てる課題による指導」

- ①指導者が、単語を言います。子供にそれに対応した音記号カードを選んで組み立てます(図4-4)。
- ②音記号カードの代わりに、かな文字カードを使います。指導者が単語を言います。子供は、それに対応した文字を、文字カードによって組み立てます(図4-5)。



図4-4



図4-5

指導のポイント 指導者と子供が、交互に問題を出す課題にします。子供の動機づけを維持するのに効果的です。

文章をスラスラと読めない



図5-1

困難の背景

「単語をまとまりとして読む力に弱さがある子供」は、文をスムーズに読むことに困難を示します。私たちは、文を読む際に単語をまとまりとして読んでおり、一文字ずつ読んでいるわけではありません。文章の流暢な読み困難の背景には、「文字を読む（文字を音に変換する）ことの困難」や、「単語をまとまりとして読むことの困難」があります。

指導の考え方

文章の読みを促進する方法のうちで、取り組みやすいものは、「単語の読みを改善する方法」です。この方法では、読ませたい文章中の単語について、まとまりとして読むことを練習します。

指導例1 「フラッシュカード課題と単語完成課題による指導」

- ①はじめに、かな単語をカードに書き、ひらがな単語カードを10枚程度作成します。
- ②かな単語カードを短時間（1・2秒程度）、順に提示し、子供に読むよう教示します（フラッシュカード課題）（図5-2）。
- ③読むことができるようになったら、単語の一部のかな文字をシールで隠します。子供に、単語の始めと終わりの文字を手がかりにして、単語を完成させて読むように、教示します（単語完成課題）（図5-3）。
- ④読めない場合には、隠されていない単語カードを提示して、読ませます。



図5-2



図5-3

指導のポイント 単語をまとまりとして読むことができるようになると、文章の読みが流暢になります。単語完成課題は、子供の興味を引く課題で効果的です。

指導例2 「単語検索課題による指導」

- ①意味豊かな単語と無意味かな単語から構成した、かな文字のリスト（1行にかな単語が3個含まれた、20行のリスト）を、複数作成します。
- ②子供に対して、1分間でできるだけ多くのかな単語を見つけるように教示します。

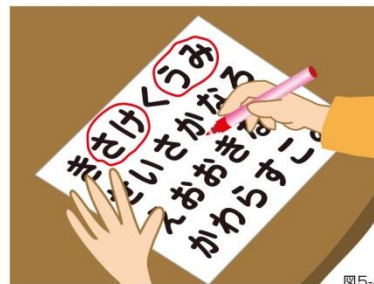


図5-4

指導のポイント 単語検索課題は、実際に音読を子供に求めないので、取り組みやすい課題です。課題を繰り返して、行うことで、次第に、見つけることのできる単語数が増えていきます。個数を記録して子供に示し、動機づけを高めます。

生活でよく使う漢字単語が読めない



図6-1

困難の背景

漢字単語の読み困難を示す者の中には、「語彙の発達が弱い子供」と共に「聴覚記憶の弱い子供」がいます。語彙の発達は、話し言葉の発達の一部であり、意味理解の発達と関連します。

指導の考え方

「語彙の発達の弱い子供」に対しては、子供が知っていることから中心に指導を組み立てます。また、「聴覚記憶の弱い子供」に対しては、漢字単語の内容を表すイラストと例文を用いて、漢字単語の読みの指導を行います。

指導例1 「漢字単語と絵の連合を形成する課題による指導」

- ①はじめに、絵カードの名前を言うこと（命名）を確実にします。ここで利用する絵カードは、漢字単語カードの読みと関連したものを用意します（図6-2）。
- ②絵カードを示し、複数の漢字単語カードを示します。絵カードに対応する漢字単語カードを選ぶことができるように練習します。その際に、絵カードの名前を言いながら、漢字単語カードを選ぶように教示します（図6-3）。
- ③最後に、漢字単語カードを提示し、読みを言うように教示します。



図6-2



図6-3

指導のポイント 絵は、漢字の読みを引き出す手がかり（プロンプト）として用います。わかりやすい絵を用いることがポイントです。

指導例2 「絵の視覚記憶を手がかりとする課題による指導」

- ①はじめに、絵カードの命名を確実にします。
- ②次に、絵カードの上に、漢字単語カードをすらして置き、漢字単語カードを読むように教示します。子供は絵を手がかりに、読みます（図6-4）。
- ③次いで、漢字単語カードをすらします。前の時よりも絵の面積を小さくして、漢字単語カードを読むように教示します。子供は、絵カードを手がかりにして読みますが、絵の面積が小さいので、絵の記憶に基づいて読むことになります。
- ④最後に、漢字単語カードだけで読むことができるように練習します。



図6-4

指導のポイント 絵を漢字単語で隠すことによって、絵の面積を少しずつ、小さくしていきます。漢字単語の枚数が多すぎないように注意します。子供にとって学習しやすい漢字単語の枚数を、設定します。

生活でよく使う漢字単語が書けない



図7-1

困難の背景

漢字単語の書き困難を示す者の中には、「漢字の読みが苦手な子供」と共に「漢字部品の視覚記憶が苦手な子供」がいます。

指導の考え方

生活でよく使う漢字単語の書きが苦手な子供では、漢字の読みと合わせて指導を行います。また漢字部品の視覚記憶を促進する指導を行います。視覚記憶を促進する上で、一部が不足した部品情報（欠落漢字カード）を完成させる課題は、効果的です。

指導例1 「漢字の絵カードと欠落漢字カードを手がかりとする書字課題による指導」

- ①はじめに、単語の絵が書いてあるカード（絵カード）を見せて、単語名で答えることを確実にします。
- ②複数の漢字単語カードを置きます。絵カードを示し、絵カードに対応する漢字単語カードを選んで、漢字単語カードを見て、漢字を紙に書くこと教示します（図7-2）。
- ③一部が不足した漢字単語（欠落漢字カード）を、複数置きます。絵カードを示し、絵カードに対応する欠落漢字カードを選び、一部が欠けた漢字単語を見て、漢字を紙に書くことを教示します（図7-3）。
- ④③と同じ手続きで、欠落漢字カードについて、欠けた部分を大きくしていきます。
- ⑤最後に、漢字単語の読みを示し、漢字単語を書くことを教示します。



図7-2



図7-3

指導のポイント ③では、欠落漢字カードの内の欠けた部分を補って、書くことを教示します。書くことが苦手な場合には、漢字単語カードを、ヒントとして短時間提示し、視覚記憶を手がかりとして書くよう促します。

指導例2 「部品を組み立てて漢字を構成する課題による指導」

- ①子供の前に、漢字の部品を書いたカード（部品カード）を、複数置きます。
- ②指導者は、漢字の読みカードを示します。あわせて、漢字カードを、短時間示します。指導を進める中で、欠落漢字カードを提示します。
- ③子供はその漢字カードを見て覚え、部品カードを組み立てて、漢字を合成します。

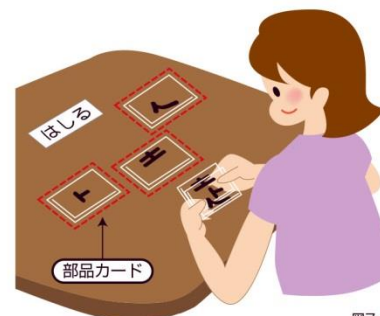


図7-4

指導のポイント 透明なカードに部品を書いておくと、部品カードの組立てが容易になり、わかりやすい課題になります。

抽象的な意味の漢字単語が読めない



図8-1

困難の背景

「漢字単語の意味の理解が難しい子供」や「聴覚記憶が弱い子供」では、抽象的な意味の漢字単語の読み学習が困難になります。私たちが電話番号を記憶するときには、番号を心の中で繰り返します。このように言葉で記憶する力を聴覚記憶といいます。「聴覚記憶が弱い子供」では、心の中で反復して記憶することが苦手です。漢字単語の読み困難は、聴覚記憶の弱さに関連します。

指導の考え方

学習課題の視覚イメージを高めることで、聴覚記憶の関与が少なくなることがわかってきました。「聴覚記憶が弱い子供」では、学習課題の視覚イメージを高める働きかけが効果的です。

指導例1 「単語の絵と例文を手がかりとする読字課題による指導」

- ①はじめに、絵と例文が書いてあるカード（絵＋例文カード）を見せて、単語名で答えることを確実にします（図8-2）。
- ②子供の前に、複数の漢字単語を示します。
- ③指導者は、絵＋例文カードを示し、子供に、対応する漢字単語を選んで、漢字の読みを言うように教示します（例えば、会社の絵と「かいしゃで、はたらく」を示して、「会社」の漢字単語を取るように教示します）（図8-3）。
- ④最後に、漢字単語を提示し、漢字の読みを言うように教示します。



図8-2



図8-3

指導のポイント 単語の意味を示すときに、子供自身が経験したこと（経験した内容や、時期、場所、その時の感情など）を手がかりとして、絵＋例文カードを作成すると、わかりやすくなります。

指導例2 「カテゴリ課題による指導」

- ①カテゴリ名カードと、そのカテゴリに属する複数の漢字単語カードを用意します。子供の前に複数の漢字単語カードを置きます。
- ②指導者がカテゴリ名カードを提示し、子供は、対応する漢字単語カードの読みを言いながら、選びます。（例えば、「はたらく」とカテゴリカードを提示して、「会社」、「出勤」、「給料」などのカードを選びます）（図8-4）。



図8-4

指導のポイント カテゴリ名は、子供にとって身近なものをを用いると効果的です。

抽象的な意味の漢字単語が書けない



図9-1

困難の背景

「漢字の読みが苦手な子供」や「漢字部品の視覚記憶が苦手な子供」では、抽象的な意味の漢字単語の書き学習が困難になります。「漢字部品の視覚記憶が苦手な子供」では、漢字の細部の正確な書字が難しくなります。

指導の考え方

「漢字の読みが苦手な子供」では、読みの指導を行います。「漢字部品の視覚記憶が苦手な子供」では、部品について意味づけを促します。意味づけの仕方としては、(1) 漢字の形を特徴づける絵カードを利用する課題、(2) 短時間、形を特徴づける絵カードを提示し、その記憶に基づいて書字する課題があります。これらは、聴覚記憶の弱い子供でも得意な課題です。

指導例1 「漢字の形絵カードを利用した書字課題による指導」

- ① 漢字の形の特徴を示した絵カード（漢字の形絵カード）を、作成します。例えば、「魚」であれば、漢字の部品を含んだ、魚の絵を用意します。
- ② 指導者が絵カードを示し、子供がそれを読んで、漢字を書きます（図9-2）。
- ③ 指導者が漢字の読みをいいます。子供は対応する絵カードを選び、漢字を書きます。

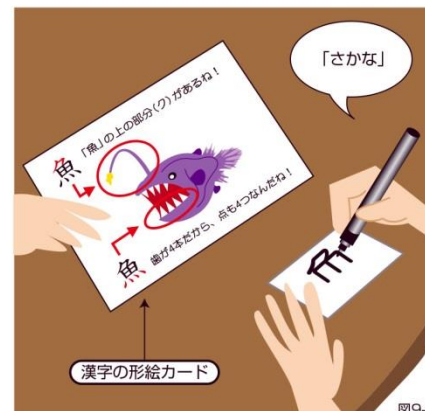


図9-2

指導のポイント 漢字の意味と読みに対応したイラストの中に、うまく、漢字の部品を書き込みます。記憶するときの手がかりになるように、少し強調して書きます。

指導例2 「漢字の形絵カードの視覚記憶を手がかりとした書字課題による指導」

- ① 指導者は、漢字の形絵カードを、3秒間、提示します。
- ② その後、漢字の形絵カードを裏返しにし、視覚記憶を手がかりに書いてください、と教示します。①と②を反復提示し、複数の漢字について指導します（図9-3）。
- ③ ②ができるようになったら、漢字の一部が欠落している漢字カード（欠落カード）を作成し、①と②を行い、書字させます（図9-4）。



図9-3

図9-4

指導のポイント 視覚記憶に基づいて、書字させる指導では、画要素を欠落させた漢字で、漢字カードを作成します。

複雑な形の漢字の読み書きが苦手



図10-1

困難の背景

語彙の発達が良好で、聴覚記憶が良好でも、「視空間覚認知が弱い子供」では、文字の部品の位置関係を把握することが難しくなります。また複雑な漢字の形の記憶が難しくなります。その結果、書いた字が正しい字なのか、判断するのが難しくなります。

指導の考え方

「視空間認知が弱い子供」では、相対的に、聴覚記憶が強いので、言葉の手がかりを利用します。言葉の手がかりを覚えることで、漢字の形を把握できるようにします。また、漢字のまちがい箇所をさがすことによって、正しい漢字の形を学習します。

指導例1 「漢字の形を言葉で把握する書字課題による指導」

- ①漢字を、部品に分け、部品に名前をつけます。
- ②部品の名前をカードに書き、部品名カードをつくります。例えば「杉」ならば、「木に、ななめ3本」です。
- ③子供の前に部品名カードを複数枚、置きます。指導者が「杉の字は？」と聞き、子供に対応するカードを取るよう指示します（図10-2）。
- ④子供の前に漢字カードを複数枚、置きます。指導者が「木に、ななめ3本は？」と聞き、子供に対応する漢字カードを取るよう指示します（図10-3）。



図10-2



図10-3

指導のポイント 子供の考えをききながら、わかりやすく、言語化しやすいように部品をわけます。細かく、分けすぎないようにします。

指導例2 「漢字のまちがい箇所の検索と書字課題による指導」

- ①漢字の画要素の一部がまちがった文字を複数作成し、文字リストとして、子供に提示します。
- ②子供は、まちがい箇所を見つけたらそれに印をつけ、正しい文字を下に書きます（図10-4）。
- ③時間を決めて、見つけることの出来た漢字の数を記録して、学習成果を見せることは、動機づけに効果的です。



図7-4

指導のポイント 間違いやすい箇所を、あらかじめ、示すことによって、課題にうまく取り組めるように、支援します。